

福富康夫 院長

医療法人大雅会

ふくとみクリニック

(インフォメーション) 〒534-0024 大阪市都島区
東野田町2の9の23 晃進ビル4F 電話0120-9931-0
15 ホームページは「脳卒中 ふくとみ」で検索



脳卒中後遺症

再生医療で救う

ふくとみ・やすお 兵庫県出身。愛媛大学医学部卒業後、神戸大学医学部第二外科入局。高槻病院小児外科など病院勤務を経て、2009年ふくとみクリニック開院。2012年民間で初めての骨髄幹細胞による「脳卒中再生医療」を開始。2014年医療法人大雅会設立。理事長・院長。2016年厚生労働省から認定を受け特定認定再生医療等委員会代表に就任。日本再生医療学会員。

ふくとみクリニックでの治療はまず採血を行い、それから1カ月後に2回目の採血と、骨盤から骨髄採取を行う。その後、院内の培養室にて、1カ月かけて自分の血液を培養し骨髄幹細胞を培養させる。培養した細胞に菌や毒素が入っていないかの検査を

クリニックへ

の通院は、治療とリハビリの

期間合わせて約1年半。その

間、福富院長は、患者の心の

ケアにも力を注ぐ。「通って

いた病院から『あなたは今もう

一生車いす』と言われる、人生

に希望を失い、気持ちが悪さ

ぎ込んでいる患者さんも多く

いらしています。そうした患

受付は女性スタッフが対応



取材・漆崎真人

撮影・渡邊大輔

関西
町の名医
Zoom Up!

を国内で唯一、民間の医療機関として厚生労働省から許可を受けて行っているのが医療法人大雅会ふくとみクリニック。院長の福富康夫氏に詳しく話を聞いた。

日本で毎年30万人近くが発症する脳卒中。さまざまな世代に起こるこの疾患は、たとえ一命をとりとめても、半身不随や手足のまひといった後遺症が罹患者の人生を狂わせる。後遺症を抱えながらの生活を余儀なくされる人も多く、リハビリに次ぐ新たな治療として注目されているのが再生医療だ。脳卒中の後遺症に対する再生医療

治療4カ月 さらば「リハビリ一択」

脳卒中の後遺症に対する治療は長年リハビリ一択だった。それだけにリハビリで改善されなければ、みんな治療を諦めるしかなかった。再生医療はそんな患者に光を与える新たな治療で、ふくとみクリニックには南は沖縄、北は北海道まで日本全国から患者が訪れる。

脳卒中は血管が詰まって細胞が死ぬ脳梗塞と、血管が切れて細胞が死ぬ脳出血の2つがある。「外科医が手術で行うのは血管の詰まりを解消させること、切れた血管を繋いだり、固まった血を取り除くことを行い、命を救うことが目的です。その後脳卒中によ



2週間ほどかけて入念に行った後、体に戻していく。体に戻す細胞投与は3回に分け、3週間おきに行われる。最初の採血から投与が完了するまでの治療期間はトータルで約4カ月。「投与した細胞は約1年間体の中に残ります。この1年を病院でのリハビリとともに、普段の日常生活、例えば仕事に打ち込んだり、家事をこなすなど、頭と体を鍛えるだけ多く使った生活を送ることが非常に大切で、治療結果を左右します」

福富院長は「再生医療と日常生活を含めたリハビリは両輪。どちらかとも行うことで大きな効果を発揮するのです」と力を込める。

治療を始めるタイミングとしては「何年経っても手遅れになることはありませんが、早いほど良くなる可能性は高まります」と、早期治療を勧めている。また再生医療は、傷ついた血管壁を修復することから「脳卒中の再発予防にも効果が期待できます」とも。

院内で骨髄幹細胞培養 「患者さんの心と体に希望の光を」

患者さんの心と体の両方に希望の光を当て、笑顔あふれる人生を取り戻してもらう。その実現こそが当院の最終的な目標です」

再生医療によって、寝たきり状態だった患者を車いすへ。車いすだった患者を杖での歩行へ。意思表示ができなかった患者を発声可能な状態へ。リハビリのみではかなわなかった改善実績をこれまでいくつも積み上げてきた。

福富院長自身も、7年ほど前に脳梗塞を発症し、再生医療を受けた経験をもつ。「経験したからこそできるアドバイスがあります。脳卒中の後遺症に対する治療として、再生医療があることを知らない方はまだまだ大勢いらっしゃいます。当院のような、民間の一医療機関で受けることができるので、後遺症に悩まれている方はぜひ、選択肢の一つに入れてもらえれば」

開院以来、すでに100人を超える患者が再生医療を受けている。脳卒中の後遺症に悩む患者の福音となる治療法として、今後ますます注目を集めそうだ。